

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100%）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80%以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60%程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60%程度未満）

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>8. 教育研究等環境</p> <p>【計画44-1】（総務人事部） ポストコロナに向け、各学部・研究科等における教育研究組織の整備・充実に配慮した適切な施設・設備について、計画的な整備を図るとともに、教育研究等の環境整備について、その適切性について点検・評価、検証を行い、その結果を改善に反映させる。</p> <p>【計画達成のための方策】 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。</p> <p>【評価指標】 ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況</p> <p>【計画44-2】（総務人事部） ポストコロナに向け、「環境整備に関する実施計画」に基づき、教育研究等を支援する環境等の整備・充実に努める。</p> <p>【計画達成のための方策】 1. 各キャンパス校舎においてはバリアフリーに配慮した施設・設備の改修を推進する。 2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに施設・設備の老朽化対策に対応した適切な整備を図る。 3. 各学部・研究科等の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底するとともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。 4. 学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・コモンズ）の整備に努める。</p>	Ⅳ	<p>Ⅳ 本学は医療系大学で、看護師等養成施設の基準及び栄養士法に定める基準に基づき施設・設備の整備・維持管理を行っている。施設・設備の老朽化等の点検・評価、検証は、資格を有する業者に委託し、施設担当職員を配置し維持管理を行っている。提出される施設要望について点検・評価し整備している。</p> <p>Ⅳ 1. 計画した雄湊キャンパス体育館トイレのバリアフリー化工事は文科省補助金選定漏れのためR6年度は未実施となった。実施時期を再検討する。 2. R6年度新設の臨床検査学専攻で使用する実習室として臨床検査実習室、微生物学実習室及び生理学実習室の3実習室を世田谷キャンパス本館を改修し整備した。臨床検査技師養成に必要な設備・備品は年次進行で整備する。 3. 委託専門業者による施設・設備の点検・評価、検証として活用している報告は、電気設備点検報告、空調設備点検報告、消防設備点検報告、水質検査報告、エレベータ点検報告、建物は特定建築物定期検査報告です。点検結果により、空調設備は修理・修理、消火器・誘導灯は交換、受水槽は清掃・薬剤投入、エレベータはリニューアルした。引き続き、施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行う。 4. 特定建築物定期検査報告による外壁・防水補修が必要な建物は大規模修繕でなく部分補修で対応した。 5. 視聴覚設備のキャンパス要望は授業の合間に業者委託し修理・交換した。</p>	<p>【年度計画44-1】 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。</p> <p>【評価指標】 ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況</p> <p>【年度計画44-2】 1. 各キャンパス校舎においてはバリアフリーに配慮した施設・設備の改修を推進する。 2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに施設・設備の老朽化対策に対応した適切な整備を図る。 3. 各学部・研究科等の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底するとともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。 4. 学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・コモンズ）の整備に努める。</p>	Ⅳ	<p>Ⅳ 看護師等養成施設の基準及び栄養士法に定める基準に基づき施設・設備の整備・維持管理を行っている。環境整備計画に基づき新学科及び定員増の学科の年次進行に合わせて計画的な環境整備を行った。各学科要望の実現に務めた。各キャンパスの故障・不具合設備の復旧・改善を適時に行い、学修・研究環境へ及ぼす影響の低減を図った。施設・設備の老朽化等の点検・評価、検証は、資格を有する業者に委託し、指摘事項は改善した。</p> <p>Ⅳ 1. 財政改善期間のため、雄湊キャンパス体育館バリアフリー化工事は次年度以降に見送り、環境整備計画に基づき計画とおり整備した。 2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は、各種法令に基づき委託専門業者による施設・設備の点検・評価、検証として活用。活用する報告は、電気設備点検報告、空調設備点検報告、消防設備点検報告、水質検査報告、エレベータ点検報告、特定建築物定期検査報告です。報告結果に基づき設備修理、消火器・誘導灯交換、受水槽清掃・薬剤投入。老朽化施設は非構造物点検を行い必要な対策を次年度以降行う。国立病院機構キャンパス本館・研究棟の故障自動火災報知設備を更新。 3. 実験・実習室は、世田谷キャンパスに臨床検査学専攻用実習室、微生物学実習室、生理学実習室に必要な実験設備・備品を整備。臨床工学専攻用実習室として臨床工学実習室Ⅰ・Ⅱを整備。整備された実習室の管理・責任体制を定めた。 4. 五反田キャンパスは看護学科定員増対応に対応するため空調設備・視聴覚設備の改善を段階的に行い学生の主体的な学修支援体制を向上。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会 内部質保証推進会議
<p>【評価指標】 ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備等の整備状況</p> <p>【計画45】(学長戦略本部) 「多様な価値観を尊重し、一步先を歩み続ける医療」を支える「一步先の教育」を実現するため、DXによる基盤強化により「学修者本位の多様な教育の提供」、「学びの質の向上」を図る。</p> <p>【計画達成のための方策】 1. 教育DXの推進 ポストコロナにおいてもDXを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサプリメント(DS)やルーブリックを更に進化させて、多面的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。</p> <p>◇IT基盤の強化 ・ネットワークの強化(5G対応) ・セキュリティ対策 ・シングルサインオン導入 ・学生PCの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備</p>	Ⅲ	<p>1. 教育DXの推進 ・DXに関しては、全学的に行動目標を設定して、高い意識で行動しているが、予算と人的リソースが必ずしも潤沢でないため、すべての計画を実行することが難しい。しかしながら、コロナ禍以降、確実にDX化が定着しつつあるので、計画的な導入を実現するため、予算、情報システムリソースの確保が必要である。 ・文部科学省支援事業「大学・高専機能強化支援事業」は、受験市場の変化や他大学の動向を踏まえて、計画を中止したため、約9億円の補助金を返上した。今後は医療情報学科の学科再編から医療保健学部の学部再編というダイナミックな変更を行い、学生募集の安定化を図る。その意味で、外部資金調達に関しては、ここ数年のような大型な予算を獲得できていないので、ICTに関しても厳選した投資を行った。</p> <p>◇IT基盤の強化 ・令和6年度は大きな補助金の獲得が無かったため大型の投資を行っていないが、ハイブリッド授業を効果的に実施するという、本学の方針に基づき、ZOOMライセンスを全学ライセンスに切り替えて、オンライン学習の推進や時間と場所を超えた学生や教員とのコミュニケーションを時間制限なくできるようにした。 ・先ほども説明したが、CampusPlanに保証人ポータルサイト機能を追加し運用を開始することで、保証人とのコミュニケーション強化や郵送物の削減によってレスペーパー促進の環境を整えた。 ・WIFIネットワーク環境の強化やPC貸与は継続して実施している。 ・学内サーバに関しては、順次クラウド化を進めている。これにより、コスト削減、運用負荷の軽減、BCP対策、利便性の向上といった効果が期待できる。</p>	<p>【評価指標】 ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備等の整備状況</p> <p>【年度計画45】 1. 教育DXの推進 ポストコロナにおいてもDXを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサプリメント(DS)やルーブリックを更に進化させて、多面的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。</p> <p>◇IT基盤の強化 ・ネットワークの強化(5G対応) ・セキュリティ対策 ・シングルサインオン導入 ・学生PCの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備</p>	Ⅲ	<p>令和7年度は、「多様な価値観を尊重し、一步先を歩み続ける医療」を支える「一步先の教育」の実現に向け、学長戦略本部を中心に、教育DXによる基盤強化と学修成果の可視化を継続して推進した。本学では、大学ビジョン7に掲げる「DXを取り入れ、教育・研究・学生支援・学内業務を大胆に改革し、デジタル社会を先導するスマートキャンパス」の方針のもと、教育DXを単なるICT機器の導入にとどめず、DPIに基づく学修成果の可視化、IRIによる教育・学修データ分析、エビデンスに基づく授業改善と一体的に進めてきた。</p> <p>ディプロマ・サプリメントについて現在分析を進めており、学位プログラムごとの到達度や学修成果を多面的に把握するための資料整理を行っている。また、学修成果を可視化するためのデータ基盤としてキャンパス・プランの整備を実施し、成績、履修、各種アンケート、学修成果に関するデータを今後のIR分析や内部質保証に活用できる環境整備を進めた。さらに、IR研修への参加、関西医療大学との連携・意見交換、IR Newsの2回発行及びホームページ掲載を通じて、教育DX、教学マネジメント、学修成果の可視化に関する情報収集と学内外への還元を行った。</p> <p>特に、令和7年度に公表された大学基準協会による認証評価結果において、本学は2025年度大学評価の結果、大学基準に適合していると認定され、認定期間は2026年4月1日から2033年3月31日までとされた。同評価では、教育DX基盤を教育に組み込み、教育用電子カルテ、患者型生体シミュレータ、3D解剖学視覚化・バーチャル解剖システム、VR機器、実習記録・指導・評価の電子化等を活用して臨場感のある教育を提供している点が「長所」として示された。さらに、これらの取組は、教育DXを単なる技術導入にとどめず、教育理念と結びつけながら実践教育として体系的に展開し、学習成果の可視化と教育の質を高める取組として評価されている。</p> <p>以上により、令和7年度は、教育DXの推進、学修成果の可視化に向けたデータ基盤整備、IRIによる分析・発信、他大学との連携を着実に実施した。ディプロマ・サプリメントの分析結果報告は現在分析中であるが、認証評価においても本学の教育DXと実践教育の体系的展開が長所として評価されており、年度計画は概ね達成している。評価区分は「Ⅲ：年度計画を概ね達成している」と判断する。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室設備のハイフレックス化(対面・オンライン選択授業) ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代替実習環境の充実 ・ICTツールの計画的配備 ・ICT利用支援体制の構築 <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LMS(学修管理システム)と教務システム連携強化 ・ディプロマサブリメント機能拡充 ・ICEルーブリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育DXの推進状況 <p>2. 研究DXの推進</p> <p>研究活動を支えるICT基盤環境を図り、オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。</p> <p>◇研究データ基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究を支えるICT基盤強化 <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費獲得に向けICT基盤強化 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究DXの推進状況 <p>3. 事務DXの推進</p> <p>教育研究を支える業務運営全般のDX化も加速させる。事務的処理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を高める。</p>	I	<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMの全学ライセンス化により、教員の全てが無制限にZOOMを使用できるため、これまで以上にハイブリッド化が促進された。全学ライセンスは、学生も無制限に使えるようになるが、令和6年度は移行期間として、学生に周知していなかった。令和7年度からは全学生も無制限ライセンスに移行することで、学生間、教員と学生間のコミュニケーションの促進に寄与したい。 ・講義のオンデマンド化には、授業収録を簡易にできることが必要になるが、上記のZOOMの全学ライセンス化によりZOOM録画機能を有効に使えるようになり、授業コンテンツの二次活用が可能になった。 ・本学では5つの看護学部学科があり、ICTツールの導入がバラバラという構造的な課題を抱えていたが、計画的なICTツールの調達を実現するために行ってきた「ICTツール要望調査」も4年目を迎え、全学導入ツールの共通化や調達コストの最適化が図られてきた。 <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修成果の可視化では、Webclassのポートフォリオ機能に加え、和歌山と立川キャンパスでは、実習ポートフォリオとしてF.CESSナースを導入して、実習病院と本学キャンパスをシームレスにつないだポートフォリオ化が可能になった。現在は2学部での導入だがライセンスは全学ライセンスなので水平展開をおこなうべく、学内周知を継続する。 ・保証人ポータルサイトの運用準備を行った。次年度開始。 <p>2. 研究DXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな進捗はなかった。 <p>◇研究データ基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな進捗はなかった。 <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費管理システム『科研費プロ』による導入効果により1名人員を削減できた。 <p>3. 事務DXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年4月からコンビニ学外証明書発行システムを導入した。年間7000件の証明書発行で割合の大きい成績証明書、卒業証明書、終了証を自動発行することで、現金回収工数や手作業の工数が削減できた。 ・新入生学生証作成では、4月オリエンテーション時に顔写真の撮影をキャンパスで行ったが、昨年引き続き今年も富士フィルムの顔写真アップロードクラウドサービスを活用して写真を回収した。また、学生カードの登録も紙からWebフォーム利用に変更して、各キャンパス事務部の負担を軽減できた。 	<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室設備のハイフレックス化 ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代替実習環境の充実 ・ICTツールの計画的配備 ・ICT利用支援体制の構築 <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LMSと教務システム連携強化 ・ディプロマサブリメント機能拡充 ・ICEルーブリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育DXの推進状況 <p>2. 研究DXの推進</p> <p>研究活動を支えるICT基盤環境を図り、オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。</p> <p>◇研究データ基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究を支えるICT基盤強化 <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費獲得に向けICT基盤強化 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究DXの推進状況 <p>3. 事務DXの推進</p> <p>教育研究を支える業務運営全般のDX化も加速させる。事務的処理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を高める。</p>	III	<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMの全学ライセンス化により、教員の全てが無制限にZOOMを使用できるため、これまで以上にハイブリッド化が促進された。全学ライセンスは、学生も無制限に使えるようになったが、令和7年度からは全学生も無制限ライセンスに移行するとしていたが、運用設計ができておらず、まずは学友会メンバーを無制限ユーザーに移行した。 ・現在、財務改革に関連して共通科目化を積極的に推進している。分散キャンパスの本学にとっては、講義のオンデマンド化や遠隔講義は必須である。ZOOMの全学ライセンス化を有効活用できていないのが課題である。 ・本学では5つの看護学部学科があり、ICTツールの導入がバラバラという構造的な課題を抱えていたが、計画的なICTツールの調達を実現するために行ってきた「ICTツール要望調査」も5年目を迎え、上述したように総合教育センターでは、内容の見直しを積極的に行い、ツールの共通化や調達コストの最適化を継続的にしている。 <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山と立川キャンパスに加え、五反田と千葉の看護学部で、実習ポートフォリオ(F.CESSナース)を導入した。NTTやJCHO等実習病院と本学キャンパスをシームレスにつないだポートフォリオ化が4学部で可能になった。 ・保証人ポータルサイトの本格運用を始めることができた。 <p>2. 研究DXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな進捗はなかった。 <p>◇研究データ基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな進捗はなかった。 <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな進捗はなかった。 <p>3. 事務DXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年4月からコンビニ学外証明書発行システムを導入したが、2025年度は、デジタル修学証明にも対応できるよう機能追加を図った。 ・新入生学生証作成も、昨年に引き続き今年も富士フィルムの顔写真アップロードクラウドサービスを活用して写真を回収した。この運用も安定的に行えるようになってきた。総務人事部の2名の職員に、本学が所有するICカードプリンターの導入説明を行った、これにより、紛失した時の再発行を学内で行うことが可能になり、発行の時間短縮が可能になる予定。 		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集から卒業まで一元管理 <p>◇問合せ業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIとチャットボット(自動会話プログラム)の活用 <p>◇事務カウンター業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証明書コンビニ発行 ・電子マネー決済導入 ・業務の標準化と統合及びバックオフィス強化(共通業務) <p>◇業務のオンライン化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種決済 ・勤怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション <p>◇ペーパーレス化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討 <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ資産の集約基盤整備 <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ資産の集約基盤整備 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務DXの推進状況 		<p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集から卒業まで一元管理が理想だが、CampusPlanだけでは現在の業務を実現できず、各部門間の調整や整理が進んでいない。 <p>◇問合せ業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金業務の問い合わせの効率化を、マイクロソフトのAIチャットボットで実現できないか、テストを行ったが、回答用のネタ・情報を準備することが課題である。実現には時間を要す。 <p>◇事務カウンター業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証明書コンビニ発行は2024年4月稼働した。 ・事務部の電子マネー化は、東が丘キャンパス事務部と導入検討(業者のデモ・ヒアリング)を行ったが、部分的にしか電子化できないため、検討を一旦ペンディングした。 ・現在、財政健全化が本学の課題であり、事務の効率化は急務であるが、業務や人の分散化により非効率な状態は継続している。教務系システム(CampusPlanやWebclass)の入力やアウトプット、ITシステム支援、教室設備運用支援などバックオフィス強化できると人的リソースの再配分が可能になるので、継続して検討したい。 <p>◇業務のオンライン化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、紙ベースで行っている原議申請に関して、すでに利用しているX-POINT(稟議用)を活用することで、原議による意思決定をスピードアップする。 <p>◇ペーパーレス化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学としてペーパーレス宣言を発出して、全学的にSDGSやエコに対する意識向上と紙資源削減を推進している。会議資料の削減(大学経営会議など)はもちろん、現在無制限になっている学生の印刷に関しても、Papercutポイント課金機能を追加導入の準備を進めており、次年度より実質的な削減を狙っている。 <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体系的な基盤強化に至っていない。 	<p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集から卒業まで一元管理 <p>◇問合せ業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIとチャットボットの活用 <p>◇事務カウンター業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証明書コンビニ発行 ・電子マネー決済導入 ・業務の標準化と統合及びバックオフィス強化(共通業務) <p>◇業務のオンライン化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種決済 ・勤怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション <p>◇ペーパーレス化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討 <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ資産の集約基盤整備 <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ資産の集約基盤整備 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務DXの推進状況 	<p>Ⅲ</p> <p>I</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>I</p>	<p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務人事部のシステム担当を総合教育センターDX担当にアサインし、キャンパスプランの今後のクラウド化やサーバー更新について組織的に議論をできる環境を整備した。 <p>◇問合せ業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未着手であった。 <p>◇事務カウンター業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年4月からコンビニ学外証明書発行システムを導入したが、2025年度は、デジタル修学証明にも対応できるよう機能追加を図った。 ・その他は、財政健全化が本学の課題であり、事務の効率化は急務であるが、業務や人の分散化により非効率な状態は継続している。 <p>◇業務のオンライン化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・念願の勤怠システムオンライン化が実現した。 <p>◇ペーパーレス化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Papercutポイント課金機能を追加し、実質的な印刷削減を行い、経費削減に貢献できた。 <p>令和7年度は、教学IR及び経営IRを推進するため、学内に分散している教学関連データを集約・分析し、内部質保証及び大学運営の意思決定に活用できる基盤整備を進めた。特に財務委員会での資料を基に、教員の適正配置、共通科目化の根拠資料として使用し、作成した。</p> <p>教学IRは、学修成果を可視化するためのデータ基盤として、キャンパス・プランの整備を実施し、成績、履修、学生情報、各種アンケート、学修成果に関するデータを今後のIR分析に活用しやすい環境を整備した。また、令和7年度全国学生調査、卒業生アンケート、卒業生就職先アンケート、2026年度新入生プレイスメントテスト等のデータを収集・集計し、学部・学科別、学年別、入学時・在学中・卒業後の各段階における状況を分析した。令和7年度全国学生調査、2025年度新入生プレイスメントテストなど学科・専攻別の特徴を可視化した。</p> <p>経営IRの観点では、教学データを教育改善の資料にとどめず、学科・専攻別の教育支援体制、学生募集、定員管理、教職員負担、大学運営上の課題を検討するための基礎資料として活用できるよう整理を進めた。これにより、教学IRと経営IRを接続し、教育の質保証と持続可能な大学運営の両立に資するデータ資産の集約基盤整備を推進した。</p> <p>以上により、データ資産の集約基盤整備は計画どおり進捗しており、評価区分は「Ⅲ：年度計画を概ね達成している」と判断する。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議																																																																						
<p>【計画46】(研究協力部) 教育研究活動に必要な教員の研修の機会を確保するため、学会・研究会に参加する等、就業規則に基づき適切な配慮を行う。また、外部資金への積極的な申請を奨励し獲得を図る。</p> <p>【計画達成のための方策】 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。 また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。</p> <p>【評価指標】 ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況(開催回数、参加者数、参加率)</p>	Ⅲ	<p>・科学研究費助成事業(科研費)の申請に関する意識啓発を促し、一層の研究意欲の向上と研究活動の活性化を図り、科学研究費等補助金の積極的な申請を奨励するため、毎年度外部講師を招いて説明会を開催しており、今年度は千葉大学医学部附属病院医療安全管理部 教授の相馬 孝博先生を招聘し、「科研費を獲ろう」と題して、令和6年5月28日(火)17:00から90分間オンライン開催で実施した。これまでは8月上旬～中旬にかけて開催していたが、一部学科から科研費申請期限(9月)までの準備期間を長くとして欲しいとの要望もあり、今年度は5月に開催した。</p> <p>・参加者数は教職員等185名、参加率は教員66.9%と参加者数及び教員参加率とも昨年の過去最高を更新した。</p> <p>・科研費等外部資金の獲得状況は別表の「研究費総額に占める学外からの研究費の割合」及び「科学研究費助成事業新規申請件数及び採択件数」の通りである。</p> <p>・令和5年度については、研究費総額の中に占める外部資金の割合は27.9%となっている。また、科学研究費助成事業(科研費)採択件数は、令和5年度8件から、令和6年度13件と5件増となった。なお、申請件数については、令和6年度42件から、令和7年度60件と大幅に増加した。</p>	<p>【年度計画46】 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。 また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。</p> <p>【評価指標】 ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況(開催回数、参加者数、参加率)</p>	Ⅲ	<p>・科学研究費助成事業(科研費)の申請に関する意識啓発を促し、一層の研究意欲の向上と研究活動の活性化を図り、科学研究費等補助金の積極的な申請を奨励するため、毎年度外部講師を招聘して説明会を開催しており、今年度は2部制として2名の講師に依頼した。第1部は昨今の科研費制度の状況も変化しており、独立行政法人日本学術振興会 研究事業部研究助成企画課の水谷友俊課長を招聘し、「科学研究費助成事業について」と題して、科研費全般についての制度や前年度との変更点等について説明いただき、第2部は本学の医療保健学部看護学科教授の谷本真理子先生に「科研に応募しよう!」と題して、過去に審査委員でもあった経験から、採択され易い申請書の書き方など興味深い内容も含め、積極的に応募いただくよう説明があった。日程は令和7年6月2日(月)16:30から90分間オンライン開催で実施した。</p> <p>・参加者数は教職員等169名、参加率は教員68.0%で、特に教員参加率は昨年の過去最高を更新した。</p> <p>・科研費等外部資金の獲得状況は次表の「研究費総額に占める学外からの研究費の割合」及び「科学研究費助成事業新規申請件数及び採択件数」の通りである。</p> <p style="text-align: right;">(単位:千円)</p> <table border="1" data-bbox="1614 1171 2303 1465"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">令和4年度</th> <th colspan="2">令和5年度</th> <th colspan="2">令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究費総額</td> <td>211,624</td> <td>100.0%</td> <td>200,106</td> <td>100.0%</td> <td>220,730</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>学内経常研究費</td> <td>147,315</td> <td>69.6%</td> <td>144,298</td> <td>72.1%</td> <td>137,956</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>学外からの研究費</td> <td>64,309</td> <td>31.9%</td> <td>55,808</td> <td>27.9%</td> <td>82,774</td> <td>37.5%</td> </tr> <tr> <td>政府もしくは政府関連法人からの研究助成金</td> <td>16,181</td> <td>—</td> <td>22,323</td> <td>—</td> <td>27,845</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>科学研究費補助金</td> <td>28,079</td> <td>—</td> <td>24,958</td> <td>—</td> <td>44,210</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>民間研究助成金</td> <td>2,924</td> <td>—</td> <td>495</td> <td>—</td> <td>1,800</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>奨学寄附金</td> <td>6,700</td> <td>—</td> <td>2,301</td> <td>—</td> <td>200</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>受託研究費</td> <td>7,152</td> <td>—</td> <td>4,351</td> <td>—</td> <td>2,826</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>共同研究費</td> <td>3,273</td> <td>—</td> <td>1,380</td> <td>—</td> <td>5,893</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・令和6年度については、研究費総額の中に占める外部資金の割合は37.5%となり10%上昇した。また、科学研究費助成事業(科研費)採択件数は、令和6年度13件、令和7年度13件と同数となった。なお、申請件数については、令和7年度60件から、途中段階であるが令和8年度73件と既に大きく増加している。</p>		令和4年度		令和5年度		令和6年度		研究費総額	211,624	100.0%	200,106	100.0%	220,730	100.0%	学内経常研究費	147,315	69.6%	144,298	72.1%	137,956	62.5%	学外からの研究費	64,309	31.9%	55,808	27.9%	82,774	37.5%	政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	16,181	—	22,323	—	27,845	—	科学研究費補助金	28,079	—	24,958	—	44,210	—	民間研究助成金	2,924	—	495	—	1,800	—	奨学寄附金	6,700	—	2,301	—	200	—	受託研究費	7,152	—	4,351	—	2,826	—	共同研究費	3,273	—	1,380	—	5,893	—		
	令和4年度		令和5年度		令和6年度																																																																								
研究費総額	211,624	100.0%	200,106	100.0%	220,730	100.0%																																																																							
学内経常研究費	147,315	69.6%	144,298	72.1%	137,956	62.5%																																																																							
学外からの研究費	64,309	31.9%	55,808	27.9%	82,774	37.5%																																																																							
政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	16,181	—	22,323	—	27,845	—																																																																							
科学研究費補助金	28,079	—	24,958	—	44,210	—																																																																							
民間研究助成金	2,924	—	495	—	1,800	—																																																																							
奨学寄附金	6,700	—	2,301	—	200	—																																																																							
受託研究費	7,152	—	4,351	—	2,826	—																																																																							
共同研究費	3,273	—	1,380	—	5,893	—																																																																							

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分	
						自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
5. 図書館の書架を体系的・目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。 【評価指標】 ・利用サービスの改善状況	IV	5. 各館において書架の整備、案内掲示を行っている。	5. 図書館の書架を体系的・目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。 【評価指標】 ・利用サービスの改善状況	IV	5. 各館において書架の整備、案内掲示を行っている。		
	II	6. 附属世田谷図書館で地域利用者への図書館利用を展開しているが利用申込はなかった。附属東が丘図書館が参加する目黒区の医療系図書館地域連携「めぐりぶ健康ネット：めぐろ図書館健康情報連携」において共同企画展示「飲酒と健康」を開催した。	6. 地域に開かれた大学として地域開放に努めるとともに、図書館利用の拡充に努める。 【評価指標】 ・地域住民等による利活用状況	II	6. 附属世田谷図書館で地域利用者への図書館利用を展開しているが利用申込はなかった。附属東が丘図書館が参加する目黒区の医療系図書館地域連携「めぐりぶ健康ネット：めぐろ図書館健康情報連携」において共同企画展示「治療と仕事の両立」を開催した。		